







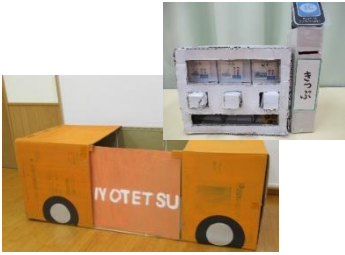





実践教材・教具紹介一覧表 松山聾学校

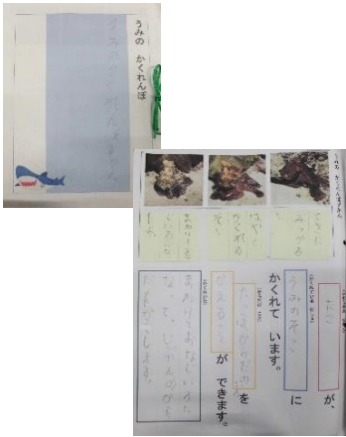

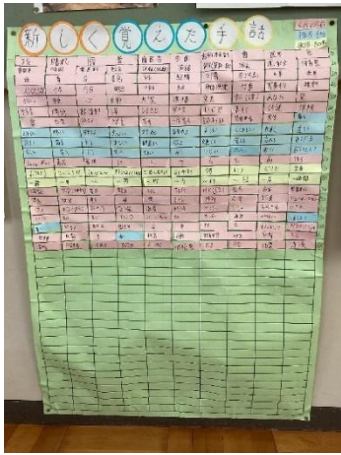
番号	教材・教具名	紹介メモ
①	<p>さんびきのこぶた再現遊び</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>絵本を読んだ後に、机上で「さんびきのこぶた」を再現して遊ぶ。わらの家と木の家は、こぶたを家に入れ、息で吹き飛ばして楽しむ。れんがの家では、煙突からおおかみを入れ、鍋の中に落として、逃げるといった流れで楽しむことができる。</p> <p>「入れて。」「嫌だよ。」「それなら、吹き飛ばしてやる。」など自由な会話をしながら操作でき、繰り返し楽しむことができる。</p>
②	<p>ハエたたきでカード取り</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>手話や音声で伝えたカードを競って取る単純なゲームだが、ハエたたきでたたくと、ピンが刺さりカードがくっつくのが楽しく、何度も繰り返し行える。</p> <p>カードはラミネート加工し、穴を開け、ピンを裏から刺して使用する。ハエたたきやピンは、100円均一ショップで購入できる。</p>
③	<p>どうぶつ絵合わせカード</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>市販の動物の絵合わせカードを活用して作成した。動物の体の前後に、文字を振り分け（例：頭「わ」、しっぽ「に」等）、その絵の下に文字を付けた。語頭、語尾の音を考える練習をしたり、違う動物の前後を組み合わせて、新種の動物の名前を作ったり、音韻の操作をすることを狙って使用する。</p> <p>文字を隠したり、出したりできるので、ヒントが出しやすい。</p>
④	<p>息の練習教材</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>ホールケーキにろうそくを立て、吹き消す遊び（呼気練習）に利用する。</p> <p>いちごやホイップのマグネットで、ホールケーキを飾り、教室を暗くし、ハッピーバースデーの歌を歌って盛り上げると楽しめる。</p>


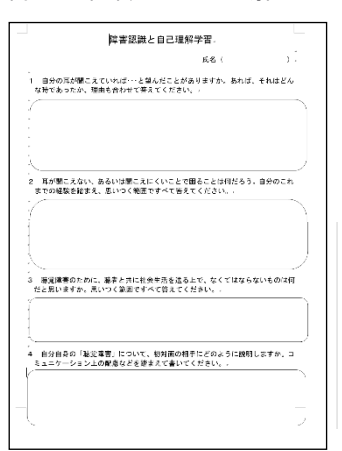
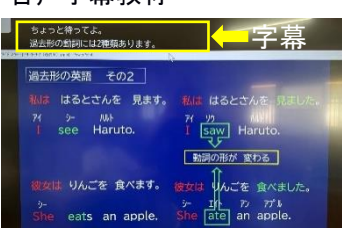
<p>⑤</p>	<p>助詞カード、文法理解教材</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>基礎的な日本語の構文を理解するために使用する。江副文法のカードを参考に作成し、助詞ごとに、形を変えている。また、動詞（緑）や名詞（黄色）、形容詞（水色）などの短冊は、ホワイトボード用のペンで書き込めるようにしている。品詞ごとに色を統一することで、動きを表す言葉や様子を表す言葉など、視覚的にも文の構造が理解しやすいようにしている。</p> <p>黒板やホワイトボードに貼って、文法構造を示したり、絵カードを用いて、動作主が誰か、対象は何かなどを考えながら短冊や助詞カードを操作し、構文づくりをしたりすることもできる。受動文などの理解、「が・を・など・で・に」などの助詞と使い方が理解しづらい場合に、絵と助詞や動詞を視覚的に提示することで理解を促すことができる。</p> <p>江副文法とは、新宿日本語学校長江副隆秀氏が提唱する日本語文法である。</p>
<p>⑥</p>	<p>母音の練習・暗唱カード</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>母音カードを見て暗唱をするカードを作成した。引いたカードに書かれた母音を発音する練習をし、覚えたらカードを裏返して暗唱をしている。2音は連続して口を動かす練習が主である。3音からは暗唱を中心とし、1回の練習で暗唱ができるようになると4音、5音と進めている。5音は母音カードを引いて順番にホワイトボードに貼り、ランダムになるようにして練習している。5音の暗唱がすぐにできるようになると、音声模倣もスムーズとなり、言葉も覚えやすくなる。</p>
<p>⑦</p>	<p>擬音語・擬態語を使った発音練習</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>ロイロノートで擬音語・擬態語を使った発音練習用カードを作成した。文字とイラストのカードに音声を録音して入れた。手本の音声を聞いた後、模倣して練習することができるよう提示時間を8秒とした。上下口唇、前舌、奥舌、口唇と前舌、口唇と奥舌、前舌と奥舌の6種類、1種類につき8枚から14枚のカードを作成し、発音練習をしている。</p>
<p>⑧</p>	<p>チョコバナナ</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>夜店屋さんごっこで使用した。バナナは幼児と一緒に新聞紙、お花紙、割箸で作った。チョコは伸びる素材の布を袋にして、バナナにかぶせられるようにし、トッピングは養生テープに細く切った色画用紙を付け、粘着面を上にして巻いた。ごっこ遊びでは、注文を受けるとチョコとトッピングを付け、チョコバナナ屋さんを楽しんだ。</p>

<p>⑨</p>	<p>色・大小・物カード</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>色・大小・物の名前の3つの特徴を聞いて覚える教材を作成した。カードを距離のある所に置き、「大きい、黄色い、傘を取ってきて。」「小さい、赤い、帽子だよ。」とゲーム感覚で使用する。答え合わせができるように、平仮名のカードも作成した。</p>
<p>⑩</p>	<p>指でなぞり書き練習</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>指で平仮名のなぞり書きができる教材である。シールフェルトに平仮名を転写し、切り取って作った。書き順を確認してからなぞる。滑らかになぞれるように用紙をラミネート加工した上からフェルトを貼っている。凸凹どちらのタイプも使用できる。</p>
<p>⑪</p>	<p>乗り物ごっこ</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>切符の自動販売機やバスなどの乗り物を段ボールで作成し、買い物学習の事前、事後指導で使用した。切符の自動販売機はボタン上の表示（子ども、大人、バス、船、電車）を変えて、楽しむことができる。バスを使った遊びでは、運転手になってハンドルを回したり、お客さんになって降車ボタンを押ししたりするなど、役を交替して楽しむことができる。</p>
<p>⑫</p>	<p>目のジャンプ運動</p> 	<p>【幼稚部】</p> <p>壁や窓にくっ付きながら落ちてくるおもちゃと色画用紙を使った教材である。まず、色画用紙を壁から少し離れた床に固定し、壁に向かっておもちゃを投げる。子どもは落ちてくるおもちゃを目で追いつきながら手でつかんで、床に視点を移して色画用紙を探し、画用紙の上におもちゃを置いてから壁に視点を移すことを繰り返す。眼球運動が苦手な幼児が楽しく取り組むことができた。</p>
<p>⑬</p>	<p>かに探しゲームの表</p> 	<p>【小学部】</p> <p>海浜学習の事前学習として、海の生き物に親しめるよう授業を行った。その中で、大きなおけの中に石や砂利を設置し、石をひっくり返したり、おけの中をよく見たりしておもちゃのかにを探して捕まえたりする活動を実施した。生き物に興味がなく、おもちゃのかにを触ることが活動に参加する動機付けのために、隠れているかにおもちゃをマッチングする表を作成した。児童は並んでいる物や表が好きのため、実際の授業でもかにおもちゃを自分から触り、表に貼り付けようとする意欲的に活動した。ほかの児童も、表を見ることでまだ隠れているかにかがいるかどうか分かり、意欲的に探して表に貼り付けた。</p>



<p>⑭</p>	<p>活動紹介・振り返り絵本</p> 	<p>【小学部】</p> <p>新しい授業内容に興味を持つことが難しい児童や、活動内容の説明が言葉だけでは理解が難しい児童のために、活動内容を簡単に紹介する絵本を作成した。仕掛けを作ることで注目を集め、読む意欲を高めるようにした。また、授業中に覚えてほしい言葉や表現、擬音語などを文字で絵本の中で示すと、児童が覚えやすかった。児童の授業に関する意欲が高まったり、児童が活動内容を絵本で把握できたりしたことで安心して活動に取り組むことが増えた。また、授業後も児童が自分から繰り返し読み、自主的に復習することができた。</p>
<p>⑮</p>	<p>野外活動の確認ブック</p> 	<p>【小学部】</p> <p>野外活動など校外での学習の際に、予定や活動内容を確認したり、行動の言語化の際の手掛かりとして活用したりするために、活動に関係する事項やイラストを描いたスケッチブックを活用した。行先に向かう途中は「～に いく。」と説明し、行先に着いた際には「～に きた。」と書き直すことで、言葉の使い方の学習にもつなげた。他にも話題になったことや新しく触れた言葉などを余白に書き込んで使用した。また、何枚か白紙のページを残しておくことで、急な変更などに対応できるようにした。</p>
<p>⑯</p>	<p>しらゆき王子の学習セット</p> 	<p>【小学部】</p> <p>重複障がい学級に在籍する児童が文化祭ステージ発表の劇の台本に興味を持ち、自分から読もうとしていた。そこで、国語科の読解教材として、台本を物語化し、児童の読みのレベルに合わせてリライトしたものを作成し使用した。物語の読み聞かせを聞いたり、音読したりしながら概要を把握し、そこから細部の理解につながるように授業を展開した。授業中には、物語を読んだ後にペープサートを自分で動かしたり、動作化したりして理解度を確認した。動作化した際の自分の表情にも注目できるようにし、表情と気持ちの言葉を結び付けられるように工夫した。教材の挿絵の顔の部分に表情を描き入れられるようにしておき、授業の最後に、登場人物の気持ちを確認しながら顔を描くようにした。</p>

<p>⑰</p>	<p>うみのかくれんぼ ずかん</p> 	<p>【小学部】</p> <p>重複障がい学級に在籍する児童が国語科での説明的な文章の学習において使用した。児童は、普段から体の仕組みに関する様々な図鑑を読んでおり、児童が意欲的に説明的な文章の学習に取り組むことができるように図鑑にまとめる活動を行った。図鑑には、生き物の名前、体の特徴、隠れる場所、隠れ方について、色分けしたワークシートを用いることで、学習内容を思い出しながら必要な語句を抜き出して書くことができるようにした。また、児童は、他者の気持ちを想像することに課題があるため、隠れ方についての動作化を行い、気持ちを付箋に書いて貼るようにした。児童は、図鑑の完成を目指して意欲的に取り組んだ。</p>
<p>⑱</p>	<p>「〇〇の歩き方」</p> 	<p>【中学部】</p> <p>重複障がい学級の自立活動で、プレゼンテーションの作成に取り組んでいる。生徒の行ってみたい地域や興味のある地域について調べ、プレゼンテーションソフトを用いて旅行ガイドブックを作成した。今回は、修学旅行の事前学習も兼ねて、大阪についてのガイドブックを作成した。この活動を通して、地理に関する学習をしたり、タイピング技術、写真やイラストのレイアウトの仕方、コピーアンドペースト等のパソコンの基本的な操作方法などを学んだりした。また、いろいろな言葉や表現を覚えるとともに、正しい助詞を用いた文での伝え方を身に付けられるよう取り組んでいる。</p>
<p>⑲</p>	<p>覚えた手話一覧表</p> 	<p>【高等部】</p> <p>生徒が新しく覚えた手話を書き込む表を作った。「物の名前」や「様子を表す言葉」など種類によって色分けをしている。生徒は、今年度地域の中学校から入学し、これまで口話のみのやり取りをしていたため、入学当初は手話をほとんど知らなかった。分からない手話を周りの生徒に聞いたり、教師と確認したりしながら、毎日少しずつ手話を覚えている。目に付く場所に掲示しておくことで、復習もしやすく、「〇個達成できた。」という生徒自身のモチベーションにもつながっている。</p>

<p>20</p>	<p>話し合いツール</p> 	<p>【高等部】</p> <p>本校は、令和元年度から「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」出場へ向けての取組を行っている。</p> <p>パフォーマンスの内容を話し合う活動時、昨年度は、地域の中学校を卒業した生徒が複数入学し、新学期開始直後からしばらくの間、生徒同士が十分にコミュニケーションをとることができない時期があった。手話をあまり知らない外部からの新生徒と本校の中学部から入学した生徒との手話スキルの差を埋め、コミュニケーションを少しでもとれるようにと、話し合いのときに「Google Jamboard」を用いた。</p> <p>Google Jamboard は、Google 社が提供するオンラインホワイトボードサービスで、会議で用いられる普通のホワイトボードのように、参加者全員が同じ画面を共有しながら、タブレット端末を通してリアルタイムで書き込むことができる。このアプリを用いることで、自分の意見を言ったり友達の意見を聞いたりということが積極的にできるようになった。</p> <p>(注) Google Jamboard は、今年の10月で使用ができなくなっている。少し機能が異なるが Microsoft のアプリ「Whiteboard」が使用できる。</p>
<p>21</p>	<p>障がい認識と自己理解</p> 	<p>【中学部・高等部】</p> <p>主に準ずる教育課程に在籍する生徒の自立活動や進路指導に関わる学習において使用した。自分自身の障がいについて理解を深め、セルフアドボカシースキルの向上へとつなげ、卒業後の社会生活を円滑に送る力を身に付けることを目指した。</p> <p>ワークシートの項目は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の耳が聞こえていれば・・・と望んだことがありますか。その理由も合わせて教えてください。</li> <li>2 耳が聞こえない、あるいは聞こえにくいことで困ることは何だろう。</li> <li>3 聴者と共に社会生活を送る上で、なくてはならないものは何だと思えますか。</li> <li>4 自分自身の「聴覚障がい」について、初対面の相手にどのように説明しますか。</li> </ol> <p>また、その他にも、自分の進路について見詰め直すワークシートも用いて取り組んだ。</p>
<p>22</p>	<p>音声字幕教材</p> 	<p>【全校】</p> <p>プレゼン教材の上にパワーポイントの音声字幕を重ねて表示をしている。</p> <p>パソコンを学習系 Wi-Fi に接続し、オンライン上でパワーポイントを使用すると、音声字幕機能を用いることができる。聾学校での勤務経験が浅く、手話の活用が十分でない（手話を勉強中の）教員の授業での情報保障として有効である。</p>